

# みえの子ども白書

2019

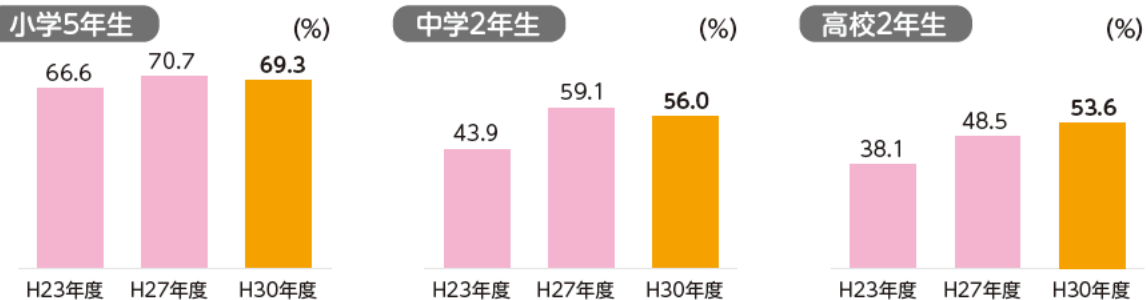
## 概要版

～家庭や地域等とのかかわりの中で、子どもたちが豊かに育つために～

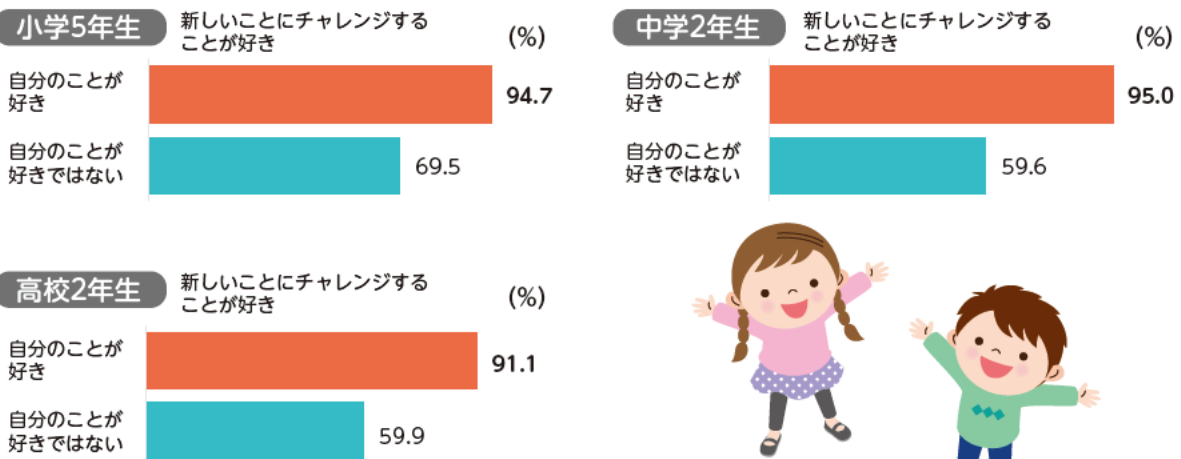
「みえの子ども白書」は、子どもや保護者、県民の皆さんへのアンケート調査の結果を中心に、子どもの生活実態や意識、周りの大人の意識や地域のかかわり等についてまとめたものです。そのあらましをご紹介します。

### 自分のことが好きと答える子どもは、高校生で増加

#### ■ 自分のことが好き

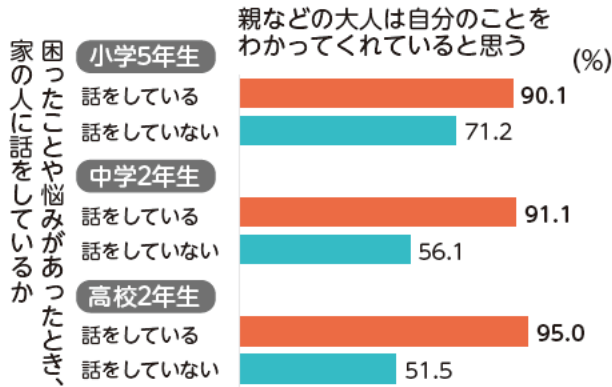


### 自分のことが好きな子どもほど、新しいことにチャレンジすることが好き

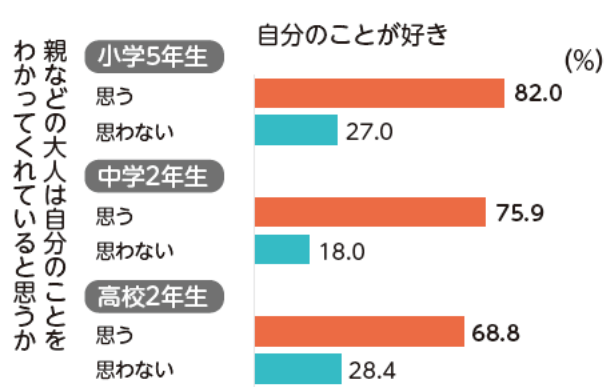


子どもが困ったことや悩みがあったとき家の人や誰かに相談することと、自己肯定感や家庭・地域等で「大切にされている」と感じることに関係性がみられる。  
子どもに対する理解について、子どもと保護者に意識の差がある。

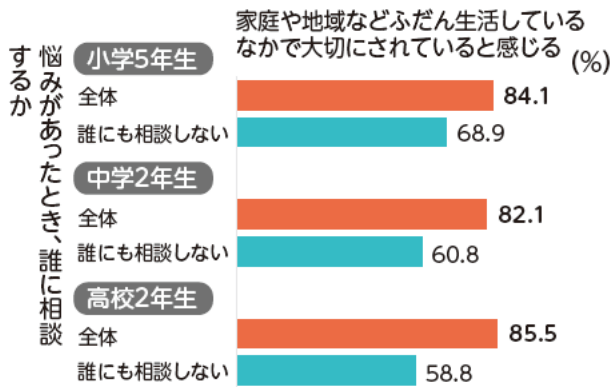
困ったことや悩みがあったとき、家の人に話をして子どもほど、親などの大人が自分のことをわかっていると思うと回答



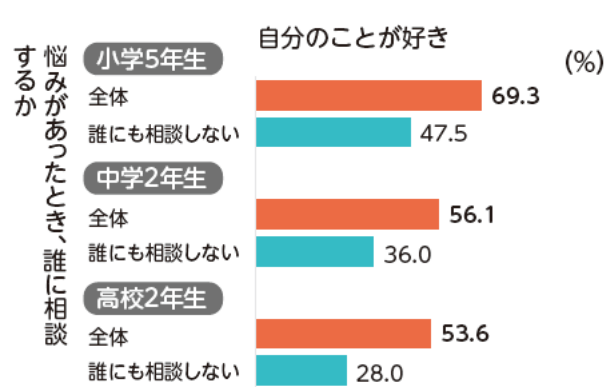
親などの大人が自分のことをわかっていると思う子どもほど、自分のことが好きと回答



困ったことや悩みがあったとき、誰にも相談しない子どものほうが、家庭や地域等で大切にされていると感じる割合が子ども全体より低い



困ったことや悩みがあったとき、誰にも相談しない子どものほうが、自分が好きと回答した割合が子ども全体より低い

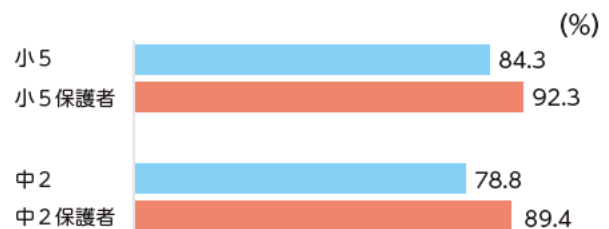


※上記グラフでは、「悩みがあったとき、誰に相談するか」の設問に回答しなかった人を「全体」に含めていない。

親などが自分のことをわかっていると思う子どもの割合は、子どもを理解していると思う保護者の割合より低い

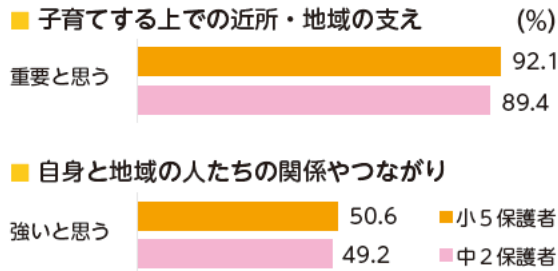


■ 子ども：親など大人は「自分のことをわかっている」と思う  
保護者：子どものことを理解していると思う

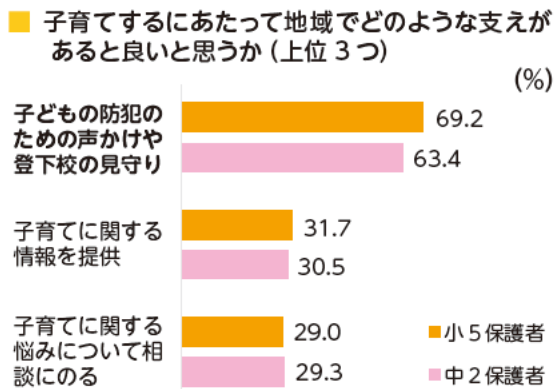


子育てにおいて近所・地域の支えは重要と考える人が大多数で、保護者からのニーズもあるなか、子育てに関する活動について、情報がないために活動に関わる機会がない人や、参加したいけれどもどのような活動がよいかわからない人が一定数いる。

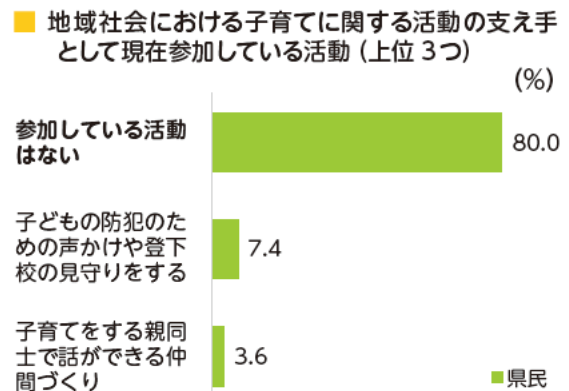
子育てする上で近所・地域の支えを重要と思う保護者は約9割と多いものの、地域の人たちとの関係やつながりを強いと思うと回答した割合は約5割



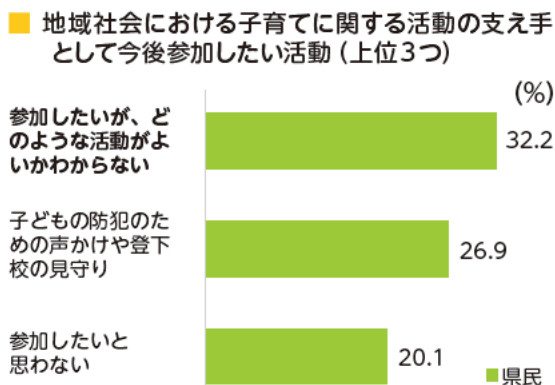
子育てにあたって希望する地域の支えは防犯のための声かけや登下校の見守り



地域社会における子育てに関する活動に参加していない県民は8割



子育てに関する活動に参加したいがどのような活動がよいかわからない県民が約3割



子育てに関する活動に参加していない理由として、活動に関する情報がないため関わる機会がない県民が約3割

